

## 県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 60	107	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 0	1	ヘルパンギーナ	↑ 135	91
咽頭結膜熱	↑ 29	18	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↑ 32	31
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	↑ 102	83	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 411	468	流行性角結膜炎 (はやり目)	↑ 16	11
水痘	↓ 43	51	細菌性髄膜炎	↓ 0	1
手足口病	↑ 17	11	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	↑ 2	1	マイコプラズマ肺炎	↓ 2	4
突発性発しん	↑ 44	42	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い  
感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 411 件(前週報告数 468 件)と減少。地区別では、山鹿、有明、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 69 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- ヘルパンギーナは、報告数 135 件(前週報告数 91 件)と増加。地区別では、人吉、菊池、天草に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 51 件を最多に主に 8 歳以下からの報告である。
- A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 102 件(前週報告数 83 件)と増加。地区別では、人吉、有明、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、4歳及び 8歳の 16 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	16		13	52	115	17	1	1	13		17	8		15				2
山鹿保健所					46	1			1		2		*	*				
菊池保健所	15		8	5	54	7	8		4		36	3						
阿蘇保健所				2	12								*	*				
御船保健所					3								*	*				
八代保健所	15		1	4	24	12	3		1		3							
水俣保健所	6		2		14			1	4			1	*	*				
人吉保健所				12	29	1	1		3		32		*	*				
有明保健所			3	17	70	4	3		6		14	3						
宇城保健所	1		1	3	20	1			5		13	5		1				
天草保健所	7		1	7	24		1		7		18	12						
計	60	0	29	102	411	43	17	2	44	0	135	32	0	16	0	0	2	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	60			2	1	2	5	11	9	6	5	2	10	2	2	3						
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	0																					
咽頭結膜熱	29		3	9	2	6	3	1	2	1	1	1										
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	102		1	1	4	7	16	15	11	7	16	6	12		6							
感染性胃腸炎	411	5	40	69	41	42	42	29	24	15	15	17	49	4	19							
水痘	43	2	1	11	5	9	4	7			1		2	1								
手足口病	17			7	4	4			1													
伝染性紅斑	2		1							1												
突発性発しん	44	4	18	19	3																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	135	2	12	51	23	21	14	7	1	1	2		1									
流行性耳下腺炎	32		1	2	2	5	5	5	4	3	3		2									
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	16			1	1			1					2	1	1	2	3		1	3		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	2		1	1																		
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

- ◇ 咽頭結膜熱：菊池
- ◇ 感染性胃腸炎：山鹿
- ◇ ヘルパンギーナ：人吉

### ヘルパンギーナ



今週のヘルパンギーナの報告数は 135 件で、前週の約 1.5 倍の数になりました。人吉地域では、報告数が警報基準値を越えている地域は、人吉、菊池の 2 地域に増えました。ヘルパンギーナは、夏に流行する小児の急性ウイルス感染症で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。発熱と、のどにできる水泡性発疹が特徴で、急な発熱で発症します。2~4 日ほどで熱はさがり、その後発疹も消失し、ほとんどの場合経過は良好ですが、まれに髄膜炎や心筋炎を起こすことがあります。特に、ぐったりしている、強い頭痛・嘔吐を伴う発熱が 2 日以上続く、などが見られた場合は医療機関を受診するようにして下さい。ウイルスは、患者の鼻水や唾液、便などに存在し、回復しても数週間は、便中にウイルスが排泄されます。一般的な予防は手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。外出後、食事の前やトイレの後は、流水と石けんで十分に手を洗い、タオルの共用はしないようにしましょう。保育園等小児の施設では、特に注意して感染予防に努めてください。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん  
<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課